

# 幼稚園の昔と今

氏 原 鏡

三六

- 1 昔は幼稚園の数が少なかつたが  
今は一千五百以上となる
- 2 昔は托兒所はなかつたが  
今は托兒所及び農繁托兒所がある
- 3 昔はフレイベル氏主義のみで保育したが  
今はフレイベル氏主義とモンテッソリー氏主義  
を併用す（我國にてはモンテッソリー氏主義は  
多く用ひられ居らず）
- 4 昔は保育室内幼兒機の排置は小學校の如く塗板  
に面してならべられたるも  
今は大機の周圍に又は圓形に排べたまはりで幼  
兒を着席さす（多數の幼兒を一室に收容する場  
合は今尙小學校式に机を排列す）
- 5 昔は保育の材料にフ氏製定の恩物のみを使用し  
たが今はフ氏恩物の外にモンテッソリー氏製定  
の教具（此教具は一般に多く用ゆる處少し）自  
然物其他適當の材料を用ゆ
- 6 昔は大形積木なかりしが  
今は各種の大形積木を玩用せらる
- 7 昔は豆細工に大豆と細き木箸を用ひこれを接續  
する小錐と小刀を用ひて大に不便なるもので有  
つたが  
今は豌豆と「ヒゴ」（竹の細く削りたるもの）を以  
て錐も小刀も用ひず最幼兒にも容易に作る事が

出来る様になつた。此發明者は五十餘年前東京女高師附屬幼稚園保姆近藤濱先生なり

8 昔は第十一恩物針畫(洋紙面に柄付針を以て刺して種々の形を表はすもの)を使用した

今は視力に害ありとて用ひぬ様になつた

9 昔は箸排べには丸箸を用ひて机上にころげ易くあつた

今は角箸を使用する様になつた

10 昔は色紙が七夕祭りに用ゆる半紙の色よくない物ばかりで有つたので洋紙美濃紙西の内等に染めさせるに色よく染り兼ね度々染め直ほされたものなりしが(當時染料の新しい物發明なく又染方の未熟による)今は染料も新らしきもの出来立派に色紙が出来る様になつたこれ染術の進みたるによるなり

11 昔は遊び場に砂場や「ブランコ」がなかつたが今は何處の幼稚園でも此設備のない事はない

12 昔は唱歌を自ら作らねばならぬ時代で今日の様

に得られず、仕方なくお茶の水幼稚園の保姆豊田英雄、近藤濱の兩先生が作歌されて夫れを宮内省式部寮の伶人先生に作曲をお願いして使用しました。斯くして明治十四年頃東京音學學校が出来此處から小學唱歌集初編二編三編及び幼稚園唱歌集の出版ある迄凡七年間東京女高師の幼稚園本校小學校に使はれたが、音學學校よりの唱歌が出来てから此唱歌は用ひぬ様になりましたが、實に不自由で唱歌には苦心の時代であつた。今は官立音學校を初めとして私立音學學校の立派なものが出来立派な卒業生が續々世に出て此人等から良き唱歌が出されて實に合せ多き時代となりました。

13 昔の唱歌の譜表は今日のものとは異なり、左に其譜表の一部分を「てふてふ」の歌で示せば

てふてふてふてふ  
双調。平調。同。勝絶。壹越。同。同。  
 なのにはとまれな  
神仙。壹越。平調。勝絶。双調。同。同。  
 のはにあいた  
平調。同。同。勝絶。壹越。同。

今は五線の上に黒點白點で表はし其音域の高低も一見してよく知らるる事舊唱歌に比して便利なり

14 昔は樂器は六絃の和琴と言ふものを用ひこれに笏拍子を添へて此琴音は微弱にして「オルガン」「ピアノ」の比にあらず且其調詞の音毎に「オルガン」の如く發するものにあらず又其調子の異なる毎に其糸を立て直ほさねばならぬ不便あり。其後は十三絃琴を用ひしも矢張同様なり。併し和琴の六絃に比しては音域は廣きも「オルガン」の比にあらず此時代は「オルガン」「ピアノ」等は舶來によるもので今日の如く我國で製造出來ず從て高價で購入難の爲め我國在來の琴を用ひた

るも其歌によりて調子を立て直はすの手數有りて式日の外は用ひざるを以て唱歌は樂器なしで手拍子でうたひたりし。今は「オルガン」「ピアノ」は各國に傳へられ唱歌は面白く興味深くうたはれる事の幸福で有る

15 昔は遊戯をするにも唱歌同様に樂器を用ゆる事出來なかつたが

今は「ピアノ」又は「オルガン」に合はせて愉快にする事が出來て誠に結構で有る

16 昔は唱歌の調子は雅樂調より成るもので全者符二分の一音符を主とし八分一又十六分一音符は用ひられぬ故、其調子は長く極優美で有つた。又唱歌の詞は雅言が多く幼兒には其意味の十分解せられぬものも有つたが（これは創作歌で進んだ今日の非難は致し方なし）今は調子は早く唱歌の旋律も幼兒の聲帯に適する様作られ其歌詞も幼兒に解り易くなつた

17 昔は遊戯の手振りは極簡單で多く外國の保育用のものを譯して作製されたが

今は其手振りの稍複雑なるものを用ひられるを見る（簡單なる遊戯を用ひられるもの有るも複雑のものを用ひんとする傾向あるは注意を要すべき事と考ふ）

18 昔は幼兒教育上に資する研究會合なる保育會がなかつたが

今は各市町村の幼稚園所在地には保育會あり其上に各保育會を聯合する保育大會あり又時に全國保育大會の開催せらるる有りて斯道の爲め結構の事である

19 昔は保育上の知識を向上發達の爲にする保育講習會がなかつたが

今は夏期に於て文部省主催の保育講習會の外私設の講習會が聞かれ其他常に各地に於て小講習會の開設あるは斯道の爲め結構の事である

20 昔は幼兒の服裝は和服で中に僅か二人の洋服の男兒あり。お茶の水の園で明治十一年頃、一人は西郷侯爵の息一人は黒川大將の息である。和服の兒の袖は筒袖でなく長かつた。腰には御守入りの巾着を提げ又「エプロン」をかける兒はなかつた。今は男女兒共に洋服で活潑に運動が出來和服は筒袖で輕るやかに皆「エプロン」をかけた姿となつた

21 昔は靴をはく兒なく幼稚園の往復には下駄又は草履をはき園内では上草履をはき歩行に快速を缺いたが今は皆上靴をはく

22 昔は幼兒の頭におけし、やつこ、ちりけ、等の髪ををき年長の女兒はおたばこぼん、に結び前髪を結び又雅兒まげに結ぶ者も有つた

今は男女兒共に頭髮ありて男兒は髪を短く刈り女兒は長く髪をきり揃へり

23 昔は保育者の多くは年長じた者で有つたが

今は若き保育者の多くなりし

24 昔は保育者の服装は柄合細かく地味で有つたが

今は保育者服装の柄合は大きく派出になりし

25 昔は保育者の髪は年長者は丸まげ若き者は蝶々

まげ又は島田まげに結びしが

今は保育者全體に束髪の輕快なるものとなりし

26 昔は保育者東京女高師付屬園では縞の袴をはく

地方幼稚園の保育者は袴をはかなかつた

今は無地の袴又は洋服を用ゆる様になつた

27 昔は保育者の態度風采共に重もくるしく輕快な

らざる感あり。これは其頭髮及び服装の關係よ

り來るものならんも幼兒に明るき感じを附與す

るに物足らぬ感ありし

今は保育者の態度風采共に其洋裝者は快活敏捷

に、其着袴者も同様に幼兒に優良の感情を養ふ

に十分なり。此の輕快なる態度を有する現代の

若き保育者諸氏は此態度の基礎を師範學校或は

女學校の在學中に於て體操科で鍛練せられしに

よるものにて昔時變則出身の到底及ばざる所で

同日の論にあらざるを思ふ。

以上昔時の古き記憶をたどりて

(昭和六年初夏 銀女)

(三五頁よりつゞく)

宙を飛んで來さうです。それで、

水の中から飛んで出よ、

と改めました。今更でもないことですが、その

まゝでも濟まされることを氣がついてから考へれ

ば、まことに、きまり悪いほど鈍感でありました。

水の中から、蛙は、出て來ることは、きまつて

ゐますのに、「飛んで來い」とは、何うしたことな

のでしたかと、今は、不思議に感ずるほどです。